

あしたの世紀につなぐ 二十一世紀

膳所の人づくり まちづくり



このマークは、膳所のまちに住んでいる人の輪を表しています。大きな人の輪を支えている小さな点が、今現在のまちの姿ではないだろうか。その点が、輪としっかり結びつき、大きく、たくましくなることを願っております。

膳所市民ニュース

膳所市民ニュース
発行
膳所学区自治連合会
編集
膳所市民ニュース
編集委員会
(膳所公民館内)

学区内の世帯数・人口	平成7年11月1日現在
世帯数	6,433
人口	男 8,006
	女 8,722
計	16,728

わがまちづくり市民会議

題字：奥村邦豊氏
寺田智次氏

膳所学区では今回で3回目になる「わがまちづくり市民会議」が去る11月12日、市民センター3階大会議室で行われた。開会にあたり、市民憲章が婦人会の佐曾羅会長の先唱により、膳所小Pの手話学習会の7人が手話で同時通訳して、これまでにない形で唱和された。山田市長や、飯田自治連会長の熱意のこもった挨拶があったあと、ビデオプロジェクトによる事例紹介が行われた。商店街や団体のイベントや行事、まつりの映像にあわせて担当者の苦労話やウラ話のナレーションがあった。次には中学生の目から見た「わたしのまちのチョット良



い話」の作文発表があった。スクリーンの映像をバックに純粋なまちへの気持ち表れていた。そして3年余り前に膳所のまちづくりのために創られた石鹿太鼓のジュニア「石鹿太鼓」の太鼓演奏があった。まちづくりの活力は着実

「お座主さま」

膳所歴史資料室 秋季展開催



平成七年度膳所歴史資料室「秋季展」が去る十一月十二日から二十五日まで同室に於て開催された。今回は「お座主さま」と題し郷土の写真家西川勇氏が密着撮影された前の天台座主山田恵諦猊下(平成六年二月遷化)のありし日を偲ぶ作品五十二点が展示され、期間中、四百名を超える人々が訪れた。今回の写真を撮影された西川勇氏は当学区相模町にお住いで「あかつきカメラ」を経営されており、平成六年度滋賀県文化賞を受賞された写真家である。

に次世代に継がれているようだった。休憩に入り、会場入口に展示された小学生の絵「膳所にこんな城があったらよいなあ」には奇抜な夢があらふれていて、「むかしといま」写真展では懐かしさと今の姿を感慨深く見つめていた。休憩のあと、フォーラム「みんなで考えよう」は4人の提言から始まった。若手の代表、古川さんから子どもたちを含め若い人が進んで参加できるイベントが必要。PTA代表、田中さんから子育てを通じて地域社会へ

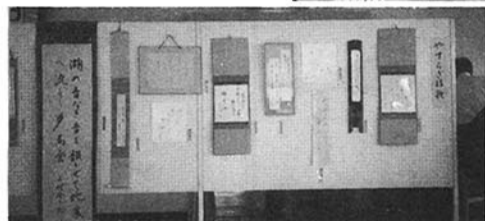
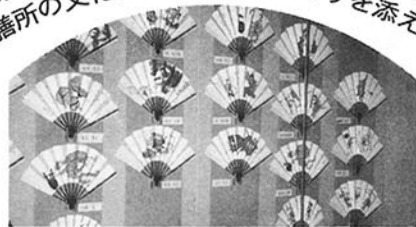


山に登る時、頂上を目指す道は一本ではなく、正面から、裏側から、右、左からといっばいあります。ルートによって時間差はあるでしょうが、頂上から見える景色は同じはずです。私達が育った環境、家庭状況、現在の立場等それぞれ違います。同様に主義、主張も違います。そして、それらの人々がこのまちの住民であり、もっと快適、自由に生きたいと願っているのです。そのためには、多くの人と話し合い、多くの考え方、生き方を理解し、一つの共通したイメージを育む必要があります。そのイメージの実現に向かって努力するのがまちづくりではないでしょうか。これからのまちづくりは、イベントの連続だけでは困難な時の方が多いでしょう。人々はともするとイベントで汗を流すことを、まちづくりだと錯覚してしまうことがあります。今回の市民会議を契機に膳所に住む人々が同じ立場で参加し話し合いができる仮称「膳所会議」を自主的に開催し、多くの人といい夢が見られたら、と願っています。

市民会議運営委員

文化祭

膳所公民館で学習されている方や地域の方々の作品を、一堂に集めての文化祭が10月29から11月3日文化の日まで開催されました。今年度は、体育振興会の記録写真・公民館講座の版画作品・松楓会の扇面による大津絵など、真新しい展示が目立ち、この他に生け花・組紐・俳句・短歌・書・藤・絵画等、多彩で高度な作品ぞろいでした。なお、文化祭参加の一環としてカラオケ・歌と踊り・詩吟・軽音楽とダンス等の発表があり、膳所の文化祭に華やかな色どりを添えていただきました。(一井俊男)



今回は、膳所藩の消防活動の実態について紹介しよう。
寛延三年(一七五〇)八月二十六日の夜、落雷によって二条城の天守閣が焼失するという一大事が起りました。この天守閣は寛永三年(一六二六)に完成した五層の立派なものでしたが、今回の焼失以後は再建されませんでした。このとき、京都全体でも三三カ所の落雷があり、京都中が大火災になったのです。
さてこの第一報が膳所藩の国元に報告されたのは、二十六日夜の九つ過ぎ(午前十時頃)でした。ただそのときは三条小路からの

出火という内容だったので、そのための人数を調達している矢先に、二条城付近が出火と知らされたのです。藩の役人たちは仰天したことでしよう。最終的に二条城の火災が確認されたのは翌二十七日七つ時(午前四時頃)。人数は一番手と二番手に分かれ、結局二十九日には三番手まで用意されたようです。
京都の白川橋では、膳所藩京屋敷の役人が火消し道具を揃えて待機していました。国

元からの人数が到着したのは明六つ頃でした。その頃にはより詳しい情報もたらされ、おとり、それによると昨晩の落雷による二条城天守閣の火災は未明になっても衰える気配を見せず、京都所司代から

城に際しては事前に京都町奉行に申込むことと念が押されました。そこで膳所藩の先駆け役が町奉行のもとに行くこと、「一応、所司代様に確認してから返答する」との回答が奉行所与力からあったのです。膳所藩勢は仕方なくその返事を待ったのですが、一向に返答はな

く、時間ばかりが過ぎていきました。膳所藩火消し方のいらだちは頂点に達していました。(続く)
(歴史博物館 樋爪 修)

ぶらり膳所 膳所藩消防隊(三)



交通安全教育を すすめる市民の集い



に企画され意気が揚った。続いて婦人部二名の功労表彰、応募作品中より選ばれた標語・ポスターの表彰状授与が行われた。

標語の部

最優秀 栗中一年 松村誠亮
とびだすな命はひとつ
大切に

優秀 栗中一年 藤田良盛
赤信号急いでいても
渡らない

優秀 栗中二年 磯野実世
気をつけよう ふいな
飛びだし赤信号

佳作 栗中二年 今井 拓
左右 よく見て渡れば
事故はなし

佳作 栗中二年 中村真子
気をつけろ よそ見を
するな事故のもと

ポスターの部

最優秀 膳小五年 小野寺舞
優秀 " 三年 大場梢恵
優秀 " 一年 古崎弘太

佳作 " 五年 秋山拓也
佳作 " 三年 川瀬美香
佳作 " 二年 山田領太

最優秀 膳幼 かくまりな
優秀 " 井上りょうすけ
優秀 膳保 さかきしん

佳作 膳幼 よこたあやな
佳作 " たかやまとおる
佳作 膳保 西村ともあき

去る十一月二十七日、更生施設生保護婦人会では奈良少年刑務所を参観した。明治三十四年旧奈良奉行所の建物

が現在の奈良市般若寺町に建て替えられたもので、赤レンガづくりの施設は日本

が痛い程伝わってくる。子供にとって、両親の厳しい中にも優しい愛と、暖かい家庭がいかに必要かを切実に物語っている。
親子兄弟の絆や人情の希薄、無関心な社会風潮や世

『あおによし』

奈良一短い母への手紙 父への手紙

で最古の古風且つ洋風の建物で、まず塀の高いのに胸が痛んだ。

されている。肉親の愛を知らない少年。お母さんへ切々と訴える慕情・父への謝罪・悔悟・はては拒絶など……。

ここは近畿及び名古屋管内の20歳~26歳未満の罪状の軽い少年を収容し、生活指導・学習指導・職業訓練その他、クラブ活動・体育・

相への警鐘ではなからうか。前途ある少年の一日も早い社会復帰と少年達を暖かく受け入れられる明るい社会づくり・家庭づくりを念願しないではいられなかつた。

